

## 令和7年度 自己評価シート【原町住区センター児童館】

### 1、福祉サービスの基本方針と組織

#### 1－1 理念・基本方針

##### 1－1－(1)

理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。

##### 【判断基準】

- (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。
- (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。
- (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。

##### 【自己評価】

実践例（取組や記録等）

■a)、□b)、□c)

目黒区児童館運営指針に基づき、保護者にも子どもにもわかりやすい内容で児童館の基本方針を館のパンフレットに掲載しています。住区の方にも直接の説明に加え、館内に区内全館共通のお知らせを掲示し、周知を図っています。

##### 1－1－(2)

理念、基本方針の確立・周知について

##### 良いと思う点

##### 改善が必要だと思う点

事業の振り返りや次年度の計画作成の際には、指針に照らして内容が適当であるか、事業の方向性を確認しています。

児童館に限らず、目黒区全体のものである【目黒区子ども条例】について、パンフレットなどを活用して啓発して行きます。

### 2、児童館の活動に関する事項

#### 2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

##### 2－1－(1)

児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。

##### 【判断基準】

- (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。
- (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。
- (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込でいない。

##### 【自己評価】

実践例（取り組みや記録等）

■a)、□b)、□c)

理念と基本方針に盛り込んでいます。研修や日常の職員会議の中で、常に児童館運営指針を念頭に置き、子どもたちと向き合う事を認識しています。今後も、

	夏季臨時職員等も含めて徹底して行きます。
2－1－（2）	児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。
【判断基準】	
(a)	児童館の施設特性を發揮している。
(b)	児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。
(c)	児童館の施設特性を發揮していない。
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
□a)、■b)、□c)	児童や乳幼児が利用しやすいように声をかけ、それぞれが繋がれるように働きかけをしています。小学生以上の利用については、保護者も一緒に楽しめる工夫を行っています。乳幼児室のフロアが独立しているので、より積極的に関わり、職員同士も利用者の情報や利用状況を伝え合っています。
2－1－（3）	子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。
【判断基準】	
(a)	子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。
(b)	－
(c)	子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
■a)、□b)、□c)	子ども同士の関わりの中で、相手にとって不快な行動や言動についてその都度丁寧に対応しています。トラブルの際は、双方の言い分をきちんと聴き取り、子ども同士の力で解決できるように指導しています。
2－1－（4）	児童館の理念・目的及び施設特性について
良いと思う点	改善が必要だと思う点
毎日の朝会昼会、月例の職員会議において、子どもたちの様子を伝え合い、情報を共有しています。その上で子どもたちにどう接していくのか、確認しています。	各職員の認識や、理解度や具体的な行動に差が出ないように、『報告・連絡・相談』を徹底していきます。

## 2－2 遊びによる子どもの育成

2－2－（1）	子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。
【判断基準】	
(a)	子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。

(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。	
(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）	■a)、□b)、□c) 学童保育クラブとも連携し、基本的な朝会昼会に限らず、子どもたちの動きやトラブルに即対応できるようにしています。子どもたちの成長を見守り、一人ひとりの特徴をとらえ、丁寧に関わっています。

2-2-(2)

子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。

【判断基準】	
(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。	
(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）	■a)、□b)、□c) 一人ひとりが、好きな遊びをし、違う遊びをして世界が広がるように職員が関わっています。子ども会議や日々の「遊び決めの時間」、日常の会話のなかで、子どもたちがルールを考え、その中で思いやりが育めるような取り組みも行っています。

2-2-(3)

子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。

【判断基準】	
(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。	
(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）	■a)、□b)、□c) 児童館の行事や日常活動を経験し、理解している小学校高学年や中学生の子どもたちがリーダーシップを取れるように、職員が支援しています。上級生の姿を見る事で、低学年の子どもたちが思いやりの心に気づき、次代のリーダーになっていけるように関わっています。

2-2-(4)

遊びによる子どもの育成について

良いと思う点	改善が必要だと思う点
職員が子どもたちと積極的に関わり、遊びを通じ	子どもたちの「個」の主張が年々強くなっているの

て信頼関係を構築しています。職員は子どもたち同士の仲介役として、皆が楽しく遊べるように努めています。	で、職員は子どもたちの意見や主張を受け止め、それを子どもたち全体にフィードバックする力がより必要になっています。
--	--

## 2－3 児童館の安全管理

### 2－3－（1）

緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。

**【判断基準】**

- (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。
- (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。
- (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。

**【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）**

■a)、□ b)、□ c)	「災害時初期対応マニュアル」に基づき、毎月1回避難訓練を実施しています。避難訓練は地震・火災・防犯と様々な状況を想定しており、消防署や警察署の指導も仰ぎながら実施しています。ヒヤリハットの事例も朝会等で迅速に共有、再発防止策を確認しています。行事やランドセル来館の利用者も含め、保護者にも災害時の対応については、丁寧に説明しています。
---------------	---

### 2－3－（2）

利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。

**【判断基準】**

- (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。
- (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。
- (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。

**【自己評価】 実践例（取り組みや記録等）**

■a)、□ b)、□ c)	開館準備の際や定時の消毒時、閉館時に施設点検を実施しています。また、掲示物や床への落下物についてもチェックしています。特に開館時間内は幼児遊戯室の点検を丁寧に行ってます。プレイルームも、床の清掃を丁寧に行い、特に乳幼児クラブの前などは、慎重に拭き掃除を行っています。
---------------	---